芸術ニュースは世界へ発信するワールド・ステージ
週刊 芸術新聞

発行　アグリーシステム　週刊芸術新聞編集部
本社　千葉県茂原市1016-12
Mail　agree@green.ocn.ne.jp
　　agree-sys@excite.co.jp

おもしろ体験博物館
江戸民具街道

神奈川県足柄上郡中井町久所418
開館時間 10:00～17:00 月曜日休
電話　0466－81－5339

浮世絵・水彩画に見る 新宿風景展 江戸から昭和まで

今では世界有数の大繁華街に変貌した“新宿”を特集する。しかしその昔、江戸時代は「四谷新宿馬の糞」と言われ、甲州街道の宿場町として荷馬車が頻繁に往来する物流拠点として成り立っていた。

関東大震災を契機に郊外から多くの人々が集まるようになり、繁華街への変貌を遂げ、大きな都市・新宿に成長。本展ではその移りゆく姿を、新宿区立新宿歴史博物館所蔵の作品など約80点で紹介。　色彩豊かで歴史的記録資料としての価値も高い堀潔の水彩画を中心に、江戸の浮世絵、織田一磨の版画、佐伯祐三の油彩画などを合わせ、江戸から昭和にかけての新宿を絵画で辿る。様々な表情をみせる新宿の情景を十分楽しむことができる。

メモ

■1月16日（土）～3月13日（日）　中村屋サロン美術館　展示室1・2（東京都新宿区新宿3丁目26番13号　新宿中村屋ビル3階）　TEL03－5362－7508　一般300円　高校生以下無料　毎週火曜日休館（火曜が祝祭日の場合は開館、翌日休館）

2016年新春のご挨拶

寒中お見舞い申し上げます。”暖冬・暖冬”だと言われていたものの、本来の冬に戻り初雪、結氷が見られなどの便りが届いてきています。

２０１６年最初の発行となります「週刊芸術新聞」は、寒さにめげず発行回数を重ねるごとに部数が”うなぎのぼり”の勢いで伸び、念頭のご挨拶として、関係者・一般読者の皆様方に、編集部一同感謝を申し上げます。

美術館・博物館・ギャラリーの入場人口も増え、落ち着いた社会現象と見られています。編集部にも一般読者から多くのメールを頂き、”もっと地方の知名度が低いが侮れない作品が展示されているので、取材をして掲載して欲しい”などが寄せられています。できるだけご要望にそった紙面づくりを心がけるようにしたいと思っておりますので、ご協力のほどもお願い申し上げます。内容の濃い紙面制作をしてまいりますので、本年も応援をよろしくお願い申し上げます。

熱海湾を一望でき、眺望ナンバーワンの美術館

■MOA美術館（静岡県熱海市桃山町26－2）　電話0557（84）2511　一般1600円　高大生800円　中学生以下無料　65歳以上1200円　水曜日休館（ただし祝日は開館）

■JR熱海駅下車／4番バス乗り場からMOA美術館行8分

版画で見る二十世紀展　ピカソからウォーホルまで開催中！

■諸橋近代美術館（福島県耶麻郡北塩原村大字桧原字剣ヶ峰1093－22）　電話0241（37）1088　一般・大学生950円　小・中学生200円　＊毎週土曜日は小・中学生無料

次号は1月28日発行

日伊国交樹立１５０周年記念
ポッティチェリ展
東京都美術館

日本初の大規模な「ポッティチェリ展」が開幕。日伊国交樹立１５０周年にあたる、２０１６年も「日本におけるイタリア年」の皮切り展覧会となる。

サンドロ・ボッティチェリ（１４４４／４５―１５１０）は、優雅で美しい聖母や神話の女神を描いた画家として知られる。その作品は多くが板に描かれ、きわめて繊細であるため、まとまった数の来日はこれまでに叶いませんでした。日伊国交樹立１５０周年記念として実現する本展は、フィレンツェをはじめ世界各地から20点以上ものボッティチェリ作品を集め、その画業を一望する大回顧展となっている。

フィリッポ・リッピの工房で修業を積み、生涯のほとんどをフィレンツェで過ごしたボッティチェリは、メディチ家の画家として名を馳せ、大型の祭壇画から私的な神話画まで、幅広い主題の絵画を手掛けた。同時代の芸術家たちが、遠近法や明暗法を駆使した自然主義的な表現に向かうなか、ボッティチェリは中世美術を思わせる装飾的、象徴的な様式を貫き、独自の絵画世界を作り上げる。本展においては、初期から晩年までの宗教画、神話画、肖像画を通して、ボッティチェリ作品の特徴と魅力を紹介するとともに、師のフィリッポ・リッピや弟子のフィリッピーノ・リッピの作品をあわせて展示し、15世紀フィレンツェにおける絵画表現の系譜をたどる。

メモ　◆1月16日（土）～4月3日（日）

東京都美術館（東京都台東区上野公園８―３６）ＴＥＬ０３―３８２３―６９２１　一般１６００円　学生１３００円　高校生８００円　65歳以上１０００円　月曜日、３月22日（火）休館（ただし３月21日（月・休）、28日（月）は開室）

LIXIL ギャラリー

「クリエイションの未来展」第６回 宮田亮平監
『いきものたち』展

ＬＩＸＩＬギャラリー企画「クリエイションの未来展」についてＬＩＸＩＬギャラリー企画「クリエイションの未来展」では、日本の建築・美術界を牽引する４人のクリエイター、清水敏男（アートディレクター）、宮田亮平（金工作家）、伊東豊雄（建築家）、隈研吾（建築家）を監修者に迎え、それぞれ３ケ月ごとの会期で、独自のテーマで現在進行形の考えを具現化した展覧会を開催。

その第二期（木彫）では、馬や羽などをモチーフに静謐で思索的な世界をつくる深井隆氏と、玉眼をもつ猫や狐、幻獣をしなやかでミステリアスに表現する土屋仁応氏、毛並が波型に隆起した写実的な表現で躍動感あふれる狼などを制作する中里勇太氏の作品を展示。現代立体造形のトップランナーの研ぎ澄まされた感覚と、彼らの卓越した技術によって現出する「いきものたち」の命の輝きは観る者を捉えて離さないでしょう。

メモ　◆1月15日（金）～2月23日（火）

ＬＩＸＩＬギャラリー（東京都中央区京橋３―６―１８　東京建物京橋ビル２Ｆ）ＴＥＬ０３―５２５０―６５３０　無料　水曜日休館（２月21日（日）休館）

第４回 テーマ展示
中川一政が描いた冬
真鶴町立中川一政美術館

真鶴町立中川一政美術館では、今年度「季節を感じて　―中川一政の春夏秋冬―」をテーマに年４回に分けて中川一政が描いた四季を紹介している。

第４回目の本展では、中川一政が描いた冬の風景や、冬の花「椿」、冬の果物である蜜柑と薔薇を組み合わせて描いた静物画などを特集している。

また中川一政が亡くなる２ヶ月前の１９９０年12月に描いた絶筆「静物　薔薇」も併せて展観できる。

メモ　◆1月4日（月）～3月29日（火）

真鶴町立中川一政美術館（神奈川県足柄下郡真鶴町真鶴１１７８―１）ＴＥＬ０４６５―６８―１１２８　一般６００円　高校生以下３５０円　毎週水曜日休館（当日が祝日の場合は開館）

日本の歴史・文化の流れの中から論点を絞ったテーマを選んでの展示

■国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市城内町１１７）　電話０３（５７７７）８６００ハローダイヤル　一般４２０円、高校・大学生２５０円、中学生以下無料　月曜日休館

着物、帯、のれん、屏風、額絵、絵本など多岐にわたる

■静岡市立芹沢銈介美術館（静岡市駿河区登呂５―10―５）　電話０５４（２８２）５５２２　一般４１０円高大生２５０円　月曜日休館

庭園ゾーン　書院ゾーン　体験ゾーン　展示ゾーン

■北九州市立小倉城庭園（北九州市小倉北区城内１―２）　電話０９３（５８２）２７４７　会期中無休

フェルメールとレンブラント

17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち

森アーツセンターギャラリー

日本初公開 作品も含む

本展では、60点の作品を通して、オランダ黄金時代と当時活躍した画家たちを紹介。フェルメール、レンブラントと並び、フランス・ハルス、ヤン・ステーン、ピーテル・デ・ホーホ（京都、東京会場のみの出品）など、黄金時代を彩った巨匠たちの作品によって、当時の文化と人々の生活が目の前によみがえる。

ニューヨーク・メトロポリタン美術館、ロンドン・ナショナル・ギャラリー、アムステルダム国立美術館を中心に個人蔵の作品も加え60点を一堂に展示。中でもメトロポリタン美術館の傑作、フェルメールの《水差しを持つ女》とレンブラントの《ベローナ》は日本初公開作品となるので、貴重な機会を堪能できそうです。

メモ

◆1月14日（木）～3月31日（木）

森アーツセンターギャラリー（東京都港区六本木6―10―1　六本木ヒルズ森タワー52F）　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1600円　高・大学生1300円　4歳～中学生600円　1月19日（火）休館

美術・芸術・文芸　旬

ふれあいましょう、普段の空間にある芸術を！　企画・制作：広報通信

辻 啓子
「夏の詩（オオウバユリ）」

富張 広司
「utamaro & Balthus」

木島 斗川

下萌ゆる古墳それぞれ丸々と
妻のなき今年は休む雛飾
利根渡船ピカピカリと春日傘

朝倉 富士子

秋雨に株の珠実濡れながら
ぼろぼろ揺れるこの天の鈴
とうきびの粒あくまでも隊列を
くずさず昼寝夏つづきおり

紫式部
新井 愛子

「闘牛（不屈）」
越智 節昇

島崎 好風

江戸川柳 女の一生

著者：小野冥孝
定価　1,620円(税込)
単行本：275ページ

「江戸川柳には庶民の暮しぶりを詠んだ句が数多く見られる。……だから、江戸の女性の生きざまを川柳を通して眺めるのも、興ではないかと思ったのが本書である」（本文より）。ゆりかごから永久の眠りまで――。いつの時代も「生」の源である「女性」は強く、しなやかに生きる。数多の川柳から、江戸時代の文化、慣習、そして生き生きとした息吹を読み解く。

特集

【特別展】伊藤若冲　生誕300年記念

ゆかいな若冲・めでたい大観

―HAPPYな日本美術―

伊藤若冲生誕300年記念特別展「ゆかいな若冲　めでたい大観―HAPPYな日本美術―」が、山種美術館で開催され、新春にふさわしい吉祥の絵画に、連日にぎわいを見せている。

新春らしい作品

山種美術館では伊藤若冲生誕300円を記念し、初公開作品を含む11点を中心に、歌川国芳、河鍋暁斎、狩野一信、柴田是真、横山大観、菱田春草、下村観山、川端龍子、小林古径、奥村土牛、伊東深水など、多彩な画家たちの作品を通して、HAPPYな日本美術をたどる画期的な展覧会が人気を呼んでいる。

とくに、長寿や子宝、富や繁栄などを象徴する美術に焦点を当て、鶴亀・松竹梅・七福神など、HAPPYな気持ちをもたらす作品も展示。

会場内は作品約70点で構成され、第1章＝愛でたい、めでたい、HAPPYな日本美術―鶴亀・松竹梅・福神・聖地・吉祥―。第2章＝HAPPYになる絵画―笑い・ユーモア・幸福な情景―となっている。

入口入ると正面には伊藤若冲の《河豚と蛙の相撲図》の迫力ある屏風が目に入ってくる。伊藤若冲の墨画の中でも他に同種の作例が見られない珍しい題材作品。毒を持つ者同士が戦っている様子とも見られる。

ちょっと進むと右側には、伊藤若冲の《群鶏図》の押絵貼屏風が迫る。勢いのある筆づかいで、微妙な濃淡によって描き分けられた羽根の表現など、若冲の墨画の魅力を堪能できる作。

続いて横山大観や河鍋暁斎、川端龍子、川合玉堂など…の作品が続く。

メモ

◆1月3日（日）～3月6日（日）

山種美術館（東京都渋谷区広尾3―12―36）TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）

一般1200円　大高生900円　中学生以下無料

月曜日休館（但し、1/4・1/11は開館、1/12は休館）

2016年2月14日までの主な展覧会情報

美術館・博物館ガイド

東京都内

●東京国立博物館（東洋館）「顔真卿と唐時代の書」　1月31日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般620円　月曜日休館

●上野の森美術館「肉筆浮世絵　美の競艶」　1月17日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1500円　月曜日休館

●国立新美術館「DOMANI・明日展」　1月24日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1000円　火曜日休館

●東京都現代美術館「TOKYO　見えない都市を見せる」　2月14日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1200円　月曜日休館

●東京ステーションギャラリー「君が叫んだその場所こそがほんとの世界の真ん中だ。」　2月7日まで　TEL03―3212―2485　一般1000円　月曜日休館

●三菱一号館美術館「プラド美術館展」　1月31日まで　TEL03―5577―8600（ハローダイヤル）　一般1700円　月曜日休館

●三井記念美術館「三井家伝世の至宝」　1月23日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1200円　月曜日休館

●出光美術館「文字の力・書のチカラⅢ　書の流儀」　2月14日まで　TEL03―5577―8600（ハローダイヤル）　一般1000円　月曜日休館

●根津美術館「松竹梅　新年を寿ぐ吉祥のデザイン」　2月14日まで　TEL03―3400―2536　一般1000円　月曜日休館

●サントリー美術館「水　神秘のかたち」　2月7日まで　TEL03―3479―8600　一般1300円　火曜日休館

●渋谷区立松濤美術館「最初の人間国宝　石黒宗麿のすべて」　1月31日まで　TEL03―3465―9421　一般500円　月曜日休館

●世田谷美術館「スペインの彫刻家フリオ・ゴンサレス」　1月31日まで　TEL03―5777―8600（ハローダイヤル）　一般1000円　月曜日休館

●練馬区立美術館「浜田浄の軌跡　重ねる、削る　絵画」　2月7日まで　TEL03―3577―1821　月曜日休館

関東南部

●川崎市市民ミュージアム「江口寿史展　KING OF POP」　1月31日まで　TEL044―754―4500　一般700円　月曜日休館

●川崎市岡本太郎美術館「岡本太郎と中村正義　東京展」　1月11日まで　TEL044―900―9898　一般900円　月曜日、12／29～1／3休館

●鎌倉国宝館「肉筆浮世絵の美　氏家浮世絵コレクション」　2月14日まで　TEL0467―22―0753　一般400円　月曜日休館

●神奈川県立近代美術館　鎌倉「鎌倉からはじまった。1951―2016　PART3」　1月31日まで　TEL0467―22―5000　一般1000円　月曜日休館

●茅ヶ崎市美術館「まぼろしの翼　島谷晃展」　1月31日まで　TEL0467―88―1177　一般300円　月曜日休館

●佐野美術館「備前刀剣王国」　1月24日まで　TEL055―975―7278　一般1000円　木曜日休館

●千葉県立美術館「香取神社　神に奉げた美」　1月17日まで　TEL043―242―8311　一般800円　月曜日休館

●MOA美術館「日本の人形」　1月26日まで　TEL0557―84―2511　一般1600円　木曜日休館

関東北部

●うらわ美術館「縫い　その造形の魅力」　1月17日まで　TEL048―827―3215　一般820円　月曜日休館

●埼玉県立近代美術館「旅と芸術　発見・驚異・夢想」　1月31日まで　TEL048―824―0111　一般1200円　月曜日休館

●茨城県近代美術館「幸せはどこにある？」　1月17日まで　TEL029―243―5111　一般600円　月曜日休館

●宇都宮美術館「ビアズリーと日本」　1月31日まで　TEL028―643―0100　一般800円　月曜日休館

●高崎市タワー美術館「トップランナーⅡ　日本画の若き力」　1月31日まで　TEL027―330―3773　一般500円　月曜日休館

●山梨県立美術館「花の画家　ルドゥーテのバラ展」　1月17日まで　TEL055―228―3322

＝お出かけ前に再確認＝

ルネ・ラリックの生涯と出会う

■箱根ラリック美術館（神奈川県足柄下郡箱根町仙石原186番1）　電話0460（84）2255　一般1500円、大学生・高校生・シニア（65歳以上）1300円、中学生・小学生800円年中無休

からくり人形な関係資料多数展示中

■江戸民具街道（神奈川県足柄上郡中井町久所418）　電話0465（81）5339　月曜日休館

箱根の景観と自慢のスウイーツを楽しめます

■箱根写真美術館（神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300―432）　電話0460（82）2717　火曜日休館　毎週土曜日は夕方5時まで営業

Art Topics

第27回 ＭＯＡ美術館全国児童作品展

「第27回ＭＯＡ美術館全国児童作品展」は、国内３８４会場、海外３０会場（参加校数８，９５３校）を含む４１４会場において開催され、４５万２千点にのぼる応募作品の集大成として開催するもの。

各会場の優秀作品「ＭＯＡ美術館奨励賞」を審査選考の上決定した、入賞・入選作品３００点の展示及び団体賞（文部科学大臣奨励賞学校奨励賞６校・厚生労働大臣賞２実行委員会）を紹介。

更に、１月31日（日）にはＭＯＡ美術館能楽堂において表彰式を行う。

未来に羽ばたく子どもたちに、夢と希望を与えられる児童作品展として期待されている。

●文部科学大臣奨励賞学校奨励賞

杉並区立桃井第一小学校
岩倉市立曽野小学校
守口市立東小学校
桜井市立桜井西小学校
倉敷市立旭丘小学校
府中市立旭小学校

●厚生労働大臣賞（団体賞）

十和田児童作品展実行委員会
厚木児童作品展実行委員会

絵画の部

・文部科学大臣奨励賞（１年の部）「「ライオンとねずみ」のお話を読んで」・大田区立大森第三小学校　１年　柏原　乃々葉

・文部科学大臣奨励賞（２年の部）「夏の思い出　大三島へ釣りに」　聖徳大学生涯学習課講師　遠藤　友麗

・文部科学大臣奨励賞（３年の部）「元気に大きくなってね」　田原本町立田原本小学校　３年　新田　真琴

・文部科学大臣奨励賞（４年の部）「働くパパたちカッコイイ！」　能美市立粟生小学校　４年　岩田　咲菫

・文部科学大臣奨励賞（５年の部）「造船工場」　尾道市立高須小学校　５年　南　春瑠

・文部科学大臣奨励賞（６年の部）「ばあばあの笑顔」　鞍手町立剣南小学校　６年　松島　陸空

・外務大臣賞「ひめじじょう」　相生市立双葉小学校　２年　横家　悠真

・外務大臣賞「宝木をとるぞ！」　倉敷市立万寿東小学校　５年　貝原　衣音

・外務大臣賞「大自然」　アルテル小学校　６年　ウリエル　サンチェス　エルナンデス

・厚生労働大臣賞「お盆休み」　和歌山市立西脇小学校　４年　西脇　諒

・農林水産大臣賞「私のおじいちゃん」　高槻市立赤大路小学校　６年　内藤　姫子

・日本ＰＴＡ全国協議会会長賞「宮入りだ、階だんをのぼりきれ」　小田原市立片浦小学校　５年　西山　亮汰

・全国子ども会連合会会長賞「ゾウにえさをやったよ」　松茂町立松茂小学校　２年　齋藤　英

・ボーイスカウト日本連盟理事長賞「夜の公園のセミ」　習志野市立谷津南小学校　５年　田中　勇健

・審査員賞「たのしかった　えんそく」　南風原町立津嘉山小学校　１年　赤嶺　文太

書写の部

・文部科学大臣奨励賞（１年の部）　阪南市立東鳥取小学校　１年　大家　奏一郎

・文部科学大臣奨励賞（２年の部）　南部町立会見小学校　２年　山本　和佳

・文部科学大臣奨励賞（３年の部）　堺市立鳳小学校　３年　喜多　佑奈

・文部科学大臣奨励賞（４年の部）　貝塚市立木島小学校　４年　梅本　結鹿

・文部科学大臣奨励賞（５年の部）　鹿児島市立錦江台小学校　５年　川畑　桃佳

・文部科学大臣奨励賞（６年の部）　鳥栖市立麓小学校　６年　永江　咲好

・厚生労働大臣賞　登米市立東郷小学校　６年　千葉　真悠子

・農林水産大臣賞　呉市立川尻小学校　４年　竹内　優希

・日本ＰＴＡ全国協議会会長賞　和歌山市立木本小学校　２年　新宅　彩耶香

・全国子ども会連合会会長賞　箱根町立箱根の森小学校　１年　鈴木　彩友

・ボーイスカウト日本連盟理事長賞　香川大学教育学部附属高松小学校　５年　土井　理紗子

・審査員賞　岡山市立吉備小学校　３年　秋田　ゆい

編集後記

◆２０１６年１月も半月たってしまい、正月気分も遠いものとなってしまいました。美術館・博物館・ギャラリーは本格始動して、連日報道関係者向けの内覧会や記者発表会が開催されて、忙しい日々を過ごしています。２０１６年も各美術館・博物館・ギャラリーでは貴重な作品を集めた展覧会が予定され「ワクワク」しそうです。

◆「週刊芸術新聞」はお陰様で、２０１６年年頭から順調な滑り出しをし、関係筋からの期待される大きさに驚愕するほどで、編集部では戸惑ってしまうほどです。芸術鑑賞等は社会の安定感がなければ成りたちません。それだけ人々に余裕が生まれてきているのでしょうか、とてもうれしい限りです。

◆２０１６年が始まったばかりですが、色々な紙面構成や紙面内容に検討をはじめていますので、皆様方のご要望に応じられるよう、編集部一同が切削琢磨する所存ですので、今後のご愛読をお願い申し上げます。

＝Ｙ・Ｏ＝